

# 教区通信 ふくおか

2023(令和5)年11月1日発行

Vol.141

発行

「御同朋の社会をめざす運動」  
福岡教区委員会



「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）スローガン

## 結ぶ絆から、広がるご縁へ

-From tying bonds to great encounters-



▲北海道・笹の墓標展示館全国巡回展 強制労働犠牲者追悼法要

## P4～5 「北海道笹の墓標展示館全国巡回展福岡展」のご報告と御礼

P2 中央委員会報告

P3 重点プロジェクトリーダー研修会

P6 教化団体の取り組み  
「福岡教区スカウトクラブ」

P7 法話「孤独を知る大悲の仏さま」

P8 行事予定・編集後記

P8 報恩講法要のご案内

# 第一回 中央委員会報告

中央委員 渡邊 慶海（西嘉穂組 西蓮寺）

二〇二三（令和五）年九月二十九日、今年度第一回目となる中央委員会がリモート形式にて開催されました。

協議内容として、まず宗派重点プロジェクトの取り組みの報告

（子どもの貧困関連の今年度の取り組み・募金状況など）があり、次に各教区の実践運動の取り組み三年間の点検報告がなされました。

二〇二一年度まではコロナ禍を理由に中止になっていた様々な行事や研修・協議会等が、二〇二二年度には大きく活動再開の方向に動いている点が特徴としてあげられます。各教区・組でオンライン開催の整備も進みました。対面開催の希望も強く、今後はオンライン開催のメリット・デメリット双方を考慮して、用いていく必要がありそうです。

次に、次年度以降の実践運動基本計画も含めた協議が行われました。今年度で第四期重点プロジェクト推進機関の最終年度ということもあり、公聴会での意見もふまえ、現行の実践目標である「〈貧困の克服に向けて〉～Dāna for World Peace～－子どもたちを育むために－」の継続が、次期計画案として出されました。一方で、重点目標の見直しを求める意見具申（高岡教区）や、平和問題に取り組む意見要望もありました。また、子どもの貧困問題を継続するにして

も、数値目標をはつきりと出すべきではないかという意見、逆に数値目標化することでノルマ化するのではないか等の問題点も出るなど、活発な協議が行われました。最終的に、次期計画案については各教区からの意見を再度宗派へと届けるために一度持ち帰りという形になっています。

福岡教区からは、今年七月にSNSを利用して寺院関係者から個人情報の収集を行う人がいたため、教務所から緊急の対応があつたことを報告し、ソーシャルメディア上での過去帳またはそれに類する帳簿の取り扱い・個人情報の管理意識について、宗派でも方針を示す必要性があることを訴えました。

## ホームページ・SNSもどうぞご覧ください

ホームページ→



LINE→  
(ID:100x1zmt)



YouTube→



X (旧Twitter)→  
(@f\_hongwanji)



## 第一回 教区・特区

# 重点プロジェクトリーダー研修会

福岡教区重点プロジェクトリーダー 副田 正士  
(宗像組 淨徳寺)

二〇二三（令和五）年度第一回教区・特区重点プロジェクトリーダー研修会が八月二十九日にオンラインにて開催されました。

教区重点プロジェクトリーダーとは、各教区・特区において実践目標を推進する役職として設置されています。また、リーダーを対象に一年に二回の研修会が開催されています。

今回の研修会では、八幡真衣さん（一般社団法人えんまん代表理事）のテーマ「みんなでやれば何でもできる」とした講義がありました。

考えたそうです。

小さいときは地域の社会で過ごし、大人になつて広い世界に飛び立つても、どこまでも「ひとりじゃないよ」と言える場を提供し、究極の目標は、子ども食堂の必要がなくなり『地域食堂』となることと話されました。

今回の研修は子ども食堂という「子どもの貧困」の克服をめざす重点プロジェクトの取り組みでも第一にあげられる具体的な活動だ

八幡さんは、本願寺のビハーラ活動者養成研修会を受講され「悩み」によりそういうビハーラの理念と、自身のシングルマザーとしての現状から、同じような立場で、同じように悩んでいる人と一

緒に悩み考えていこう、共に同じ時間を過ごそうと考え、また、一人親世帯はただでさえ苦しい状況であるのに、そこに新型コロナウイルス感染症が流行して、一段と生活が苦しくなつたので行政に相談しようとしたところ、感染症対策で予約が必要という状態でした。ならば自分で支援をしていこうと思われ、子ども食堂を立ちあげたそうです。

また、浄土真宗を学ぶことによって、自分は世の中なんでも知つていて「自分が一番大事」と思つていたところに、自分のことを自分以上に大切に思つてくださる、阿弥陀如来の教えを知つてから価値観が大きく変わり、自分のことを自分以上に大切に思つてくれる人がいることに安心を覚えたそうです。そこで自身の心に余裕があり、誰かに優しさとぬくもりを共有して、与える存在になりたいと

考えたそうです。

八幡さんは、新型コロナウイルス感染拡大で、全国的に緊急事態宣言が発令された一ヶ月後の二〇二〇年六月より石川県の自坊である本光寺で「テンプル食堂えんまん」と吉崎別院で「テンプル食堂よしざき」という子ども食堂を運営されています。テンプル食堂よしざきは、毎月一回開かれ今では四〇〇人を超える人たちが利用しているそうです。

八幡さんは、本願寺のビハーラ活動者養成研修会を受講され「悩み」によりそういうビハーラの理念と、自身のシングルマザーとしての現状から、同じような立場で、同じように悩んでいる人と一

# 「笹の墓標展示館全国巡回展福岡展」のご報告と御礼

時局問題対策協議会会长 木村 真昭（福岡組 妙泉寺）

去る九月十日から十六日までの一週間、福岡教堂を会場に開催された「笹の墓標展示館全国巡回展福岡展」では、福岡教区内皆様のご理解と多くの方々のボランティアご協力により、無事に終了することができました。

またご来場の方々や、教区内の各組各寺院からは倒壊した「笹の墓標展示館」の再建に向けて、寄付金をいただきました。受付での直接力ンパが二十一万一千三百九十九円、教務所口座への送金が五十四万九千円で経費を差引いた残余金三十五万三千八百二十九円、合計五十六万円余を福岡展から再建資金に寄付することができます。深く感謝申しあげるとともにご報告申しあげます。

「笹の墓標」とは、北海道旭川の北、朱鞠内町にある町営墓地の隅に埋葬された強制労働に従事した人々の遺骨を発掘し、可能な限り個人を特定して遺族に奉還する取り組みのことです。埋葬された遺体には墓碑も無くやがて笹の原に埋もれていったので「笹の墓標」と呼ばれていますが、遺体を埋めた場所だけが沈み込んで地面が波打つていたそうです。

北海道教区一乗寺住職の殿平善彦さんが、五十年前に現地の方に呼び止められて問題に気づき仲間とともに発掘するとともに、その地での強制労働の歴史を紐解いてこられました。

かつて日本は一九一〇年から一九四五年の敗戦まで朝鮮半島を併合し植民地支配していましたが、日本人に土地を奪われて生活に困窮した多くの人々が、働き口を求めて来日し或いは強制的に日本に

連行され、劣悪な環境のなかでの炭鉱や工場での労働、ダムや鉄道の建設等の厳しい労働を強いられて、犠牲になつた人々も多くありました。

それらの人々の遺骨が戦後の永い間、日本の各地に放置されました。この事態を看過することができないいくつかの民間団体が、独自で納骨堂を建てて収納したり、韓国に奉還する事業に取り組んでこられています。

二〇〇四年の盧武鉉（ノ・ムヒヨン）大統領と小泉首相の会談において日韓両政府が遺骨問題について取り組むことが合意されました。日本政府が各宗教団体に調査を要請して、全日本佛教界も傘下の各佛教教団に対しても各寺にある韓国朝鮮人の遺骨調査を求めたので、私たち本願寺派も各教団同様に取り組み全国一万カ寺のデータがそろい、政府の意向を待つてているところでした。しかし日韓関係が、韓国の政権交代や日本首相の対韓政策の影響を受けて変動するなどにより、韓国に返還されないままの遺骨が国内に残っています。



九州では、故・襄来善（ペ・レスン）さんが発願して多くの市民

や住職によって建立された飯塚の「無窮花堂」や在日大韓基督教会小倉教会の故・崔昌華（チエ・チャンファ）牧師が建立された納骨堂「永生園」などがありますが、今回の「笹の墓標展示館全国巡回展福岡展」では、北海道と九州での取り組みを通して、私たち僧侶・門徒が知らなかつた遺骨問題を認識できたことは有り難いことでした。

「笹の墓標」の取組みの重要性は、遺骨の発掘・調査・奉還だけではなく発掘調査に参加した韓国、在日コリアン、日本やアジア各の関係は時の政権の方針によつて左右されますが、市民の個人的なつながりこそが平和の基礎になります。

そして二〇一五年笹の墓標で発掘された遺骨をはじめ、各地に保管されていました朝鮮半島出身者のご遺骨百十五体が奉還されることになります。日本に渡つて現地にたどり着いたコースを逆に、北海道から、東京・築地本願寺、大阪・津村別院、京都本願寺、関釜連絡船の発着港・下関と釜山を経由して、韓国ソウルまで届けられたのです。

しかし、一九八〇年から始まつた遺骨発掘作業の宿舎であり、犠牲者の位牌等を保管して一九九五年「笹の墓標展示館」として開設された旧光顕寺（大谷派）本堂が、二〇一九年に雪の重みで倒壊してしまいました。取り組みの継承のため再建を期して築地本願寺、本願寺聞法会館など全国を巡回しているのがこの「笹の墓標展示館



全国巡回展」です。  
九月十二日は強制労働犠牲者の追悼法要をお勤めしましたが、その表白では、「（笹の墓標は）犠牲者が埋葬放置されてきた遺骨を、在日朝鮮・韓国・日本の青年たちが共同作業で掘り起こし、郷里に奉還するという稀有の取り組みを後世に伝え困難を深める東アジアに、平和を築くための大きな礎です」と読まれました。記念講演では代表者の北海道教区一乗寺住職殿平善彦氏の「死者の声を聞く」のテーマで、上記のような市民中心の日韓交流こそが東アジアの平和構築をもたらすと話されました。

また、今回の福岡展では関係資料の展示のほか約四十年にわたる取り組みを記録した映像を上映しました。その映像をまとめたドキュメンタリーDVD『長き眠り』（六十分）は「笹の墓標」の取り組みの記録と意義をまとめたものです。福岡教務所にありますので非戦平和研修の教材としてご利用ください。

今日、ロシアによるウクライナ侵攻に続いて、パレスチナ・イスラエル戦争が勃発し多くの市民の犠牲が出ています。日本は米国の中国敵視政策に同調して沖縄・南西諸島に自衛隊を開拓し、「敵基地攻撃能力」を保有して国防費の倍増方針を明言し、アジア太平洋戦争の反省から制定した平和憲法を反故にしています。国家がある限り戦争は終わりにありません。国を棄てて出家されたお釈迦様。十方衆生を救うに安樂国を建立して迎え撲つてくださる阿弥陀様。往生淨土とは國家を根底から問いかけることもあります。



## 教化団体の取り組み紹介

**福岡教区**

### スカウトクラブについて

白山 義章（那珂組 淨運寺）

一九〇七年、ボーアイスカウトの創始者ロバート・ベーデン＝パウエル卿は、イギリスのブラウンジー島に二十人の少年たちを集めて実験キャンプを行いました。このキャンプの体験をもとに、翌年『スカウティング フォア ボーイズ』という本を著し、少年たちの旺盛な冒険心や好奇心をキャンプ生活や自然観察、グループでのゲームなどの中で發揮させ、「遊び」を通して少年たちに自立心や協調性、リーダーシップを身に着けさせようとしました。これがボーアイスカウト運動の始まりです。

日本には一九〇八（明治四十一）年にボーアイスカウト運動が伝わり、全国各地にいろいろな少年団が数多く作られましたが、その後全国的な統一結成への動きがおこり、一九二二（大正十一）年に日本連盟が創立され、ボーアイスカウト国際事務局に正式加盟しました。スカウト活動では宗教に基づいた信仰心を大切にします。全国からスカウトが集うジャンボリーなどでは宗教儀礼のプログラムも用意され、それぞれの信仰に合わせた儀礼に参加できるようにしてあります。

本願寺派では浄土真宗のみ教えに沿ったスカウト活動を行うため「本願寺派スカウト指導者会」が設立され、浄土真宗のみ教えに生きる者としてのスカウト活動に励んでいます。

福岡教区スカウトクラブは、ボーアイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟の諸規定、及び浄土真宗本願寺派スカウト指導者会規約に基づき、真宗教義による情操教育の実践を図るため、教区内スカウト指導者相互の連絡を緊密にし、もつてスカウト訓育の発展に資することを目的とし活動しています。現在、福岡教区内にはボーアイスカウトが二団、ガールスカウトが一団活動しております。毎年、教区スカウトクラブ指導者研修会を開催し、指導者の研鑽を図り、二年毎に「しんらんさまのつどい」を開催し、野外活動を通じて浄土真宗のみ教えにふれる機会を作っています。

また、スカウトクラブに所属していない一般の団からも宗教章取得のための機会提供や指導を行っています。

二〇二三（令和五）年七月

には本願寺派九州スカウト大会が福岡を「しんらんさま

ありがとうございました」へ八〇〇年のときをこえてのテーマで開催しました。コロナ禍を経て久しぶりに対面での開催となり、熊本、鹿児島、福岡から総勢八十五名が参加しました。大濠公園でのプログラムを用意していましたが、当日荒天のために本願寺福岡教堂で開催しました。



法  
一  
話  
言

## 「孤独を知る大悲の仏さま」

今泉 真也（那珂組 善教寺）

時々、お通夜・葬儀の場面でこんな光景を目にします。お参りに来られた方がご遺族に会い、言葉を交わすことなくただ抱きしめあってお互い涙を流している姿を。そこに言葉はありません。お互い言葉を交わす事なく、ただ一緒に亡くなつた方を思い泣いておられます。

大切な方を失う、身近な方を亡くすというのは計り知れない悲しみです。その悲しみや苦しみのどん底にある時、私たちは言葉を無くします。

「本当は誰かに聞いてもらいたい」「今自分がどんなに苦しいのか聞いてもらいたい」「どれだけ寂しいのか分かつて欲しい」という思いはあるけれども言葉になりません。その言葉にならない思いをわかってくれる人に出会えるということ、それがたとえ悲しいことであつても、自分と同じ気持ちを抱いてくれる人に出会えるというのととても嬉しいことです。

そう考えると、我々は孤独に弱い生き物なのかもしません。自分の気持ちを知ってくれる人がいると嬉しい、安心するということは、その反面、我々は孤独ではいられないということです。心のどこかで自分の事をわかつて欲しいという思いを背負いながら生きているのが我々です。だから私たちは「人間」というのかもしません。「間」がなければ生きていけない。いつも誰かから見つめられ、案じられ、語りかけられ、相手にしてもらう。そういう「繋がり」がなければとても一人では生きていけない。

そのことを阿弥陀さまはご存知なのでしょう。その孤独な命。その孤独な命を生きるしかない我々。誰にも言えない悲しさ、つらさ、寂しさ、いろんなものを、みんなその胸に抱えて生きてるんだと見抜いてくださいました。だから阿弥陀さまは「大悲の仏さま」になられたのでしょう。大悲の「悲」とは「人の悲しみを共に悲しむ心」「痛みを共感する心」であると聞かせていただきました。

「私が寂しい時によそい人は知らないの 私が寂しい時にお友達は笑うの 私が寂しい時にお母さんは優しいの 私が寂しい時に仏様は寂しいの」

金子みすゞさんの詩にあるように、阿弥陀さまは「その涙拭いて前を向いて歩け」とは仰いません。「その寂しさを頑張つてなくしなさい」とは仰いません。なぜなら私の事を誰よりも知つてくださった仏さまだからです。みんな人との関わりはあるけれど、そこに全てを明かすことができずに孤独というものを抱えながら生きてる。そう見抜いてくださいました。

その仏さまはどこか遠くで眺めてる訳でもなく、悠長にただ悲しんでるだけではありません。その苦悩を抱えたあなたを決して一人にはさせないと、今ここに南無阿弥陀仏と至り届いてくださいました。この命をはたらき場所としてくださる仏さまです。だからこそ、私たちはその温もりに安心して泣いていける場所が与えられるのでしょうか。

## 福岡教区教務所の行事案内

2023（令和5）年11月

11月14日（火）13:30～ 親鸞聖人鑽仰講座（LIVE配信あり）  
～15日（水）

2023（令和5）年12月

12月14日（木）13:30～ 親鸞聖人鑽仰講座（LIVE配信あり）  
～15日（金）

2024（令和6）年1月

1月26日（金）13:30～ 親鸞聖人報恩講法要（LIVE配信あり）  
～28日（日）

1月28日（日）9:30～ 帰敬式（完全事前申込制）

2024（令和6）年2月

2月7日（水）13:30～ ビハーラ福岡公開講座  
2月14日（水）13:30～ 親鸞聖人鑽仰講座（LIVE配信あり）  
～15日（木）

## 本願寺福岡教堂・福岡教区「親鸞聖人報恩講法要」のお知らせ

期 日 2024（令和6）年1月26日（金）～28日（日）

参拝組

26日（金）怡土組・早良組・上下組・夜須組・柳川組・西嘉穂組

27日（土）福岡組・宗像組・遠賀組・三門北組・八女組・鞍手組・柏屋組

28日（日）志摩組・御笠組・嘉麻組・東筑組・三門南組・下川東組・那珂組

時 間 午前 6時00分 晨 朝（27・28日）

午前 9時30分 帰敬式（28日・要事前申込）

午後 1時30分 法 要

午後 2時50分 御法話（40分×2席）

午後 4時30分 終 了

※午後1時30分（法要・法話）から午後4時30分まで動画配信を行います。

講 師 岡橋聖舟師【京都教区城南組西方寺／本願寺派布教使】

会 場 本願寺福岡教堂（福岡市中央区黒門3-2 TEL: 092-771-9081）

法要期間中・2階ロビーにてキャピック展（矯正展）、書籍の販売を予定しております。

参拝席は120席設営いたしております。お斎はありませんので、ご承知ください。

帰敬式受式を希望される方は、所属寺ご住職を通じてお申込ください。

※申込期限12月20日（水）（必着） 定員になり次第締切

編集  
後記

今年は関東大震災から100年。メディアでは震災の混乱のなかでの悲劇的な事件を多く取りあげていた。ご法話で「人間は出あう縁によって何をするかわからない」とよく言われる。極限状態のとき、冷静に合理的な判断や行動ができるのか？・・・考えさせられた。

発行責任者

浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 高原 真見  
〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2  
電話:092(771)9081